

## 国際協力特別賞

### 私の髪の毛で笑顔をつくる

鹿児島市立鴨池中学校 1年  
竹ノ内 いち花

「私もあんな髪型がしたい。」

小学校の卒業式で頭の上にお団子をしたくて、四年生の時から髪を伸ばしていました。今までずっとショートカットだった私は、四年生の時に出席した卒業式で、六年生が頭の上でお団子をしていたのを見て、小さなあこがれを抱いたのです。

六年生になった頃、テレビで女優さんが、「ヘアドネーション」という活動を紹介しているのを見ました。ヘアドネーションとは、がんや白血病、不慮の事故などにより髪の毛を失った子供たちに、人毛の医療用ウィッグを提供する活動です。三十一センチメートル以上の髪の毛が約三十人分集まれば、一人分のウィッグができます。

私は、どうせ髪を伸ばすのなら、三十一センチメートル以上伸ばして寄付してみたいなと思いました。それが目標となり、毎日欠かさず洗い、乾かして、とかしました。私の目的は、いつしか「自分のため」に加え「困っている人のため」と変化していました。

小学校の卒業式。そのころ髪の毛は、腰のあたりまで伸びていました。卒業式では、母に念願の「頭の上にお団子」をしてもらって出席しました。友達から「かわいい」とたくさん言われてとてもうれしかったです。

春休み。私はヘアドネーションの活動に参加している美容室に行き、髪を切りました。髪の毛を四本の束に結び、切る準備が進んでいくと、とても緊張してきました。

「さん、にい、いち」

とカウントダウンの後に、一束ずつ切られていき、切った束が私の手元に置かれました。びっくりするくらい重くて、「私はずっとこれを身に付けていたんだな。」とおどろきでいっぱいでした。その後、きれいにカットしてもらい、小さな紙袋に髪の毛と書類を入れて、大阪に送る用意をしました。

三ヶ月程たったころ、認定証が届きました。認定証には、認定日と認定番号が記されています。誰かが私の髪の毛でできたウィッグを手にして、笑顔になってくれる日も近付いているんだな、とうれしくなりました。

私は、このヘアドネーションという活動を通して、困っている人を笑顔にする喜び、自分から社会に貢献しようとするボランティアの素晴らしさについて学ぶことができました。

今、私の髪の毛は、結べる程の長さですが、これからも伸ばして、またこの活動に参加しようと思っています。私にとっては勝手に伸びる髪の毛ですが、人毛のウィッグを待っている子はたくさんいます。そんな子供たちの力になりたいです。また、「ヘアドネーション」の良さをたくさんの人たちに伝えていきたいと思っています。